

# 共通テストにCBTを導入するとしたら、どんなイメージ？



大学や高校で受験



自宅で受験



テストセンターで受験

- 「CBTならではの問題」（→PBTでは問えなかった問題・測れなかった力の測定が可能に！）
    - 英語での会話やニュースの動画を見て解答する問題（英語リスニング）
    - 実験の動画を見て解答する問題（化学、物理など）
    - プログラミングを実際に動かしながら解答する問題（情報）
    - 地形や地層などを3Dで見て解答する問題（地理、地学など）
  - 項目反応理論（IRT）を使えば等化ができる（→異なる試験相互の比較が可能に！）
    - 自分が希望する時期に受験できるようになる（コロナや地震をはじめとしたリスク回避としても有効）
  - データ・リンクの可能性（高校教育・大学教育の接点として膨大なデータを活用できるように！）
    - 大学でのプレイスメントなどに活用（レメディアル教育の判断や履修選択の判断などに）
    - 高等学校における指導改善への活用（学校やコースごとに、正答率の高い（低い）問題の分析データ）
- ※もちろん克服すべきハードルもたくさんある。。。
- 例）コスト面（お金がかかる）、トラブル可能性（ネットワークや機器の不調）  
公平性についての考え方（受験時期、地域格差、検定料、パソコンのスペックや回線速度の統一？）  
項目反応理論を使う場合、試験問題の漏洩リスクや問題非公表に対する考え方  
障害のある受験者にとって不利益になる場合もある など。。。